

特別支援学校小学部新入学児に対する教師の情報収集に関する研究

池田 理紗

I 問題

平成 15 年 3 月に公表された「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」（今後の特別支援教育の在り方に関する調査協力者会議，2003）では，関係機関が一体となり，乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な教育支援を行うことを目的とする「個別の教育支援計画」の必要性が述べられ，障害のある児童生徒に対して乳幼児期からの所属機関の枠を超えた一貫した支援，継続的な支援体制を構築することが求められている。

赤坂（2007）が，学齢期を迎えるにあたっての移行支援として，これまでの子どもの生活や支援をどのように学齢期に引き継いでいくかということが重要になっていくと述べているように，幼児期から学齢期への移行期において，適切な指導・支援が行われるための子どもの実態情報の伝達が必要である。

教師が子どもの実態把握を行う方法は，各学校や市町村によっても大きな違いがあるが，就学前の実態情報の引き継ぎは重要なキーワードとなってくる。しかし，情報の引き継ぎに関する取り組みの状況は，地域や学校等により様々であり，必ずしも十分な引き継ぎが行われている状況とは言えない。

このような状況において，就学前機関等から効果的に情報を収集する工夫が求められる。その上で収集した子どもの実態に関する情報を，担任教師自身が生かすことが就学後の指導に効果的であるといえる。

また，平野ら（2003）は，幼児期から学齢期へ

の移行支援を充実するためには，情報収集がキーワードであるが，これらの収集した情報が，入学後にどう生かされたかを評価をしていくことが，充実した移行支援を行っていくために必要であり，この検討が今後の課題であると述べている。

そこで，学校として引き継ぎの担当者が情報収集を行うことだけでなく，担任教師自身に情報が伝達されるところまで掘り下げた情報収集の実態と，その情報の活用状況を明らかにし，担任教師自身が効果的に情報収集を行い指導に生かすことのできる工夫や要因を検討することで，情報収集の視点から見た一貫した支援・指導を行うための知見を得ることができると考える。

II 目的

特別支援学校の小学部新入学児に対する担任教師の情報収集の実態と，収集した情報の活用状況を明らかにし，幼児期から学齢期への移行期における一貫した支援・指導の在り方を検討することを目的とする。

III 方法

1 対象

無作為に抽出した，全国の特別支援学校（知・肢・病）の小学部 1 学年担任教師

2 調査方法

郵送による質問紙調査

3 調査内容の概要

- 1) フェイスシート（調査対象者の属性）
- 2) 子どもの実態に関する情報収集の行い方
- 3) 収集した情報の活用の実態
- 4) 就学前機関からの情報を生かした実態把握の意義に対するとらえ

IV 結果及び考察

150校に質問紙を郵送し、93名から回答を得た。回収率は62.0%であった。

1 教師の情報収集の実態

子どもの在籍・利用就学前機関から学校への情報入手の状況について、何らかの情報が学校へ伝達されていると回答したのは、「幼稚園」からが88%、「保育所」からが89%、「療育機関」からが80%、「医療機関」からが73%、「就学指導委員会」からが32%であった（複数回答）。また、学校側が入手した情報は、担任の教師までほぼ全て伝達されていた。

2 教師が情報を得るための方法・要因

担任の教師が情報を入手するためには、就学前機関などからの情報を学校側に伝達するシステムと、学校側が入手した情報を担任の教師に伝達するシステムの二つの存在が必要となる。

学校に情報伝達するシステムでは、学校側が主体となり進めるものと市町村などが主体となり進めるものがあることが明らかとなった。学校側が

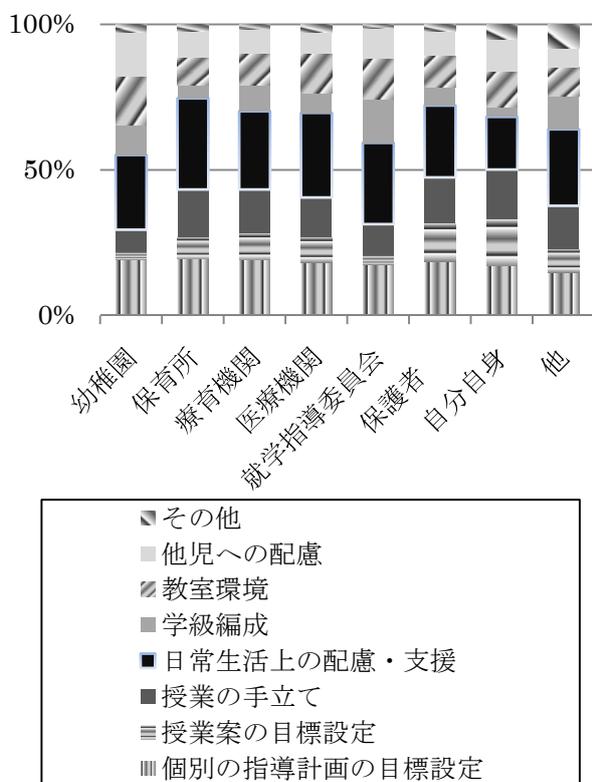


図1 収集した情報の活用場面

主体となる場合には、必要な情報を直に求めることができるメリットもあるが、情報の一括収束や他機関との連携の面では、市町村が主体となると情報収集をしやすくする要因となることが示唆された。また、学校側が入手した情報を担任の教師に伝達するシステムとしては、担任の教師自身が情報を得ようとする努力のほか、校内で「情報の収集」「情報の整理・保存」「情報の伝達」という体制が整備されていることや、担任自身が情報を得る担当者になることが情報収集をしやすくする要因となることが示唆された。

3 情報の活用状況

担任の教師が入手した情報について、「有効であった」「有効でなかった」「どちらとも言えない」の3段階で評価をもらったところ、就学前機関などから得た情報は、ほぼすべて「有効であった」という回答であった。さらに、それらの情報の活用場面について「個別の指導計画の目標設定」「授業案の目標設定」「授業の手立て」「日常生活上の配慮・支援」「学級編成」「教室環境」「他児への配慮」「その他」の8項目に分類し回答してもらったところ、「日常生活上の配慮・支援」の項目が占める割合が大きかった（図1）。また、情報の引き継ぎに関する課題として、「多忙感」や「情報の客観性・信頼性の欠如」「子どもの実態の見えにくさ」などが挙げられたが、このような状況の中でも、担任の教師が就学前の子どもに関する情報を求め、生かしていこうとする姿勢がうかがえた。

4 就学前の情報を生かして実態把握を行うことの意義

実態把握することの意義としては、「指導の一貫性」「指導の継続性」「安心感」「新しい環境へのスムーズな移行」「新しい環境への適応を早める」「子どもの正しい理解」「諸課題への対応」「必要な支援の検討」「適切な支援」「正しい課題設定」「支援体制づくり」「より早い段階での支援の準備」「実態把握の時間の短縮」などが挙げられた。「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」（今後の特別支援教育の在り方に関する調査協力者会議、2003）等にもある幼児期から学齢期への一貫

した支援・指導という特別支援教育の視点が認識されているといえる。

「幼稚園・保育所」における保育と、「療育機関・医療機関など、専門機関」における療育を学校教育へつなげていくことの意義として、プラスの理由としては、両者とも「系統的・継続的な支援・指導により、子どもの発達を促し、支援の効果をあげることができる」という回答が一番多かった。2番目に多い回答として、「幼稚園・保育所」では、「新しい環境での子どもの混乱を避ける・子どもの安心感」であるのに対して、「療育・専門機関」では、「子どもの適切な実態把握をするため」であった。また、マイナスの理由としては、「幼稚園・保育所」では、「学校と幼稚園・保育所では、目標や学習内容、人的・物的環境が異なる」「幼稚園・保育所での指導内容の信頼性や適切さに欠ける」「参考となることと、そうでないこととで取舍選択が必要」「新たな環境での新しい関わりを作ること大切」という回答に対して、「療育・専門機関」では、「連携がうまくとれていないから必要だと感じない」のみであった。さらに「幼稚園・保育所」における保育と「療育機関・医療機関など専門機関」における療育を学校教育へつなげていくことの必要度を「とても必要である」「必要でない」「やや必要である」「あまり必要でない」「必要でない」の5段階で評価してもらったところ「療育機関・医療機関」の方が「幼稚園・保育所」に比べて、必要としている割合が高く（図2）、幼稚園・保育

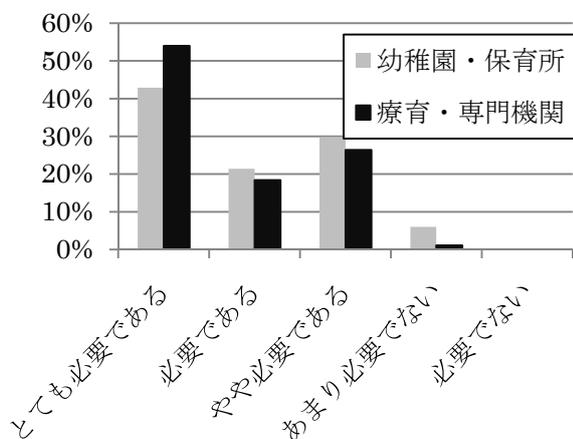


図2 就学前機関での保育・療育内容を学校教育へつなげていくことの必要度

所での保育に対する必要性がやや低かった。小林(2005)は、幼稚園・保育所と学校が連携を進めていくためには、お互いの教育・保育内容を知ることが大切であると述べているように学校の教師が幼稚園・保育所での保育内容や支援内容をより知ることによって連携を深め、学校での支援にもつなげていくことができるといえる。

また、情報収集を行う場合には、学校側の働きかけにより、就学前機関から情報伝達が行われている場合が多い実態も浮かび上がり、就学前機関からの積極的な情報伝達も必要であるといえる。

V 今後の課題

今回の調査では、学校側が入手した情報が担任の教師にどの程度、どのように降りてきているかを明らかにすることを目的の一つとして行った。そこで、学校側が入手した情報について、担任の教師が入手しているかどうかを調べた。しかし、必ずしも、情報の伝達の流れが、学校側が入手してから担任の教師に届くだけでなく、場合によっては、担任の教師自身の努力によって就学前機関と電話連絡をとったり、保護者と共に専門機関に足を運んだりして、情報得ている実態も浮かび上がった。したがって、今回の学校側の情報の入手状況から担任の教師の情報の入手状況を調べる視点だけでなく、担任個人の努力で、どのような情報収集を行っているかという視点も必要であったと思われる。

文献

- 赤坂光子 (2007) 障害者の移行支援に関する現状と課題. 肢体不自由教育, 179, 4-9.
- 平野あけみ・鎗木治・小野美穂・川上達也・小畑由紀子・藤井皇紀・片田博史・寺門宏美・大森貴子・岡本功・秋葉憲子・丹みどり (2003) 「個別の教育支援計画」の充実を目指して (1) 一 就学時の移行支援一. 茨城大学教育実践研究, 24, 389-400.
- 小林秀樹 (2005) 保育者の保育上特別な支援を必要とする幼児に対する支援の実態とその関連要因. 上越教育大学修士論文.
- 今後の特別支援教育の在り方に関する調査協力者会議 (2003) 今後の特別支援教育の在り方について (最終報告).